

No.60

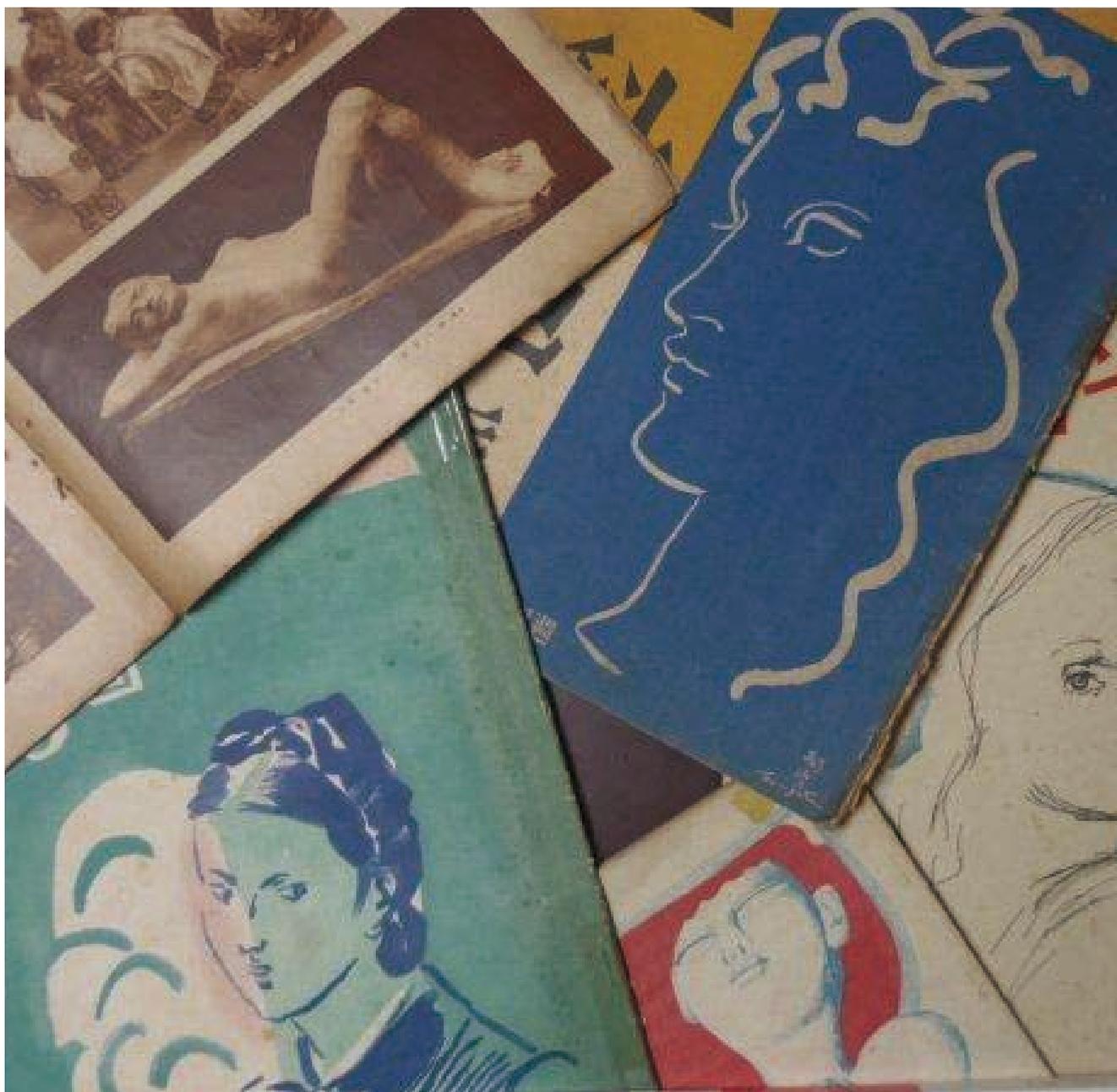
- 1面 第96回二科展
- 2～10面 総評、受賞者喜びの言葉と制作のねらい
- 11面 第96回展授賞式、二科会懇親会、巡回展
- 12面 写真部、デザイン部
- 13面 ギャラリートーク
- 14～15面 震災義援展示、計報
- 16面 広報だより、事務局だより、編集後記



秋季

社団法人

発行人 織田廣喜 発行所 二科会事務所
電話 03 (3354) 6646



(絵)田村孝之介 (絵)藤田嗣治 (絵)東郷青児 (彫)笠置季男 (絵)岡田謙三

第96回
二科展

未曾有の東日本大震災に見舞われ、自粛ムードの日々が続き、華々しさを抑えた日常の中、第96回二科展が、平成二十三年八月三十一日から九月十二日まで、六本木国立新美術館において開催されました。

初日からユツクリ台風の影響で、天候の悪い日々が続き、会場には入場者が少なかつた様に感じましたが、後半は例年どおり、活気ある会場がもどって来ました。絵画部の方々によって行われた震災義援活動で制作された子供達の作品が、会場を締めくくる壁面に力強く掛かっていたのが、印象的でした。

又、会員の方々にお願したチャリティー用色紙、立体作品などで、NHK厚生事業団を通しての震災義援に参加して頂きました。

節電の中、何とか無事過ごせたのは、前年の酷暑に比べれば、いくらか穏やかだったからでしょう。

今回の表紙は22回展、23回展、25回展、28回展、32回展を使用しました。

第96回展
総評画
[絵]

伸展する二科の作品展示

理事 香川 猛

今年の三月に起きた東日本大震災は各地に未曾有の被害をもたらした。

今日まで順調に歩んで来た二科展も今年はこの災害により一時は、開催を危ぶまれる空気が流れた。

いざ、開催の準備が始まると明るいムードで順調にすべり出した。一般応募点数も例年に近い三千点近くに達し、会員・会友を含めると四千点以上となった。

いよいよ展覧会が始まると、大震災の世相を吹飛ばすかのように入場者が多く、明るく賑やかな空気につつまれた。(十三日間約九万人の入場者)

展覧会委員会では二科展をより充実したものにすため、作品選考の時点からコンセプトを持つべきだと考えた。審査前の話し合いで、三つの具体案を提出した。

①二点作家を多くし、見応えのある会場を増やす。
②アンダー35・新人奨励賞・新人室等を計画し、若手作家の士気高揚を促す。

③大震災で被災した児童の作品を一階出口附近に展

示し、復興援助の真心を伝える。

このコンセプトが会員の同意と協力により慎重審査につながり、作品展示もスムーズにいき、例年になくきれいで、充実した会場を作り上げた。

一階の展示室は会員の作品が中心で、大作が多く、重鎮作家・中堅作家・斬新作家と順路を追って見応えのある作品が陳列された。二階は会友を中心として



絵画部審査風景



テープカット

第96回二科展
受賞者氏名(絵画部)

内閣総理大臣賞(絵画)
中原 史雄(京都)

二科賞
餅原 宣久(鹿児島)

パリ賞
北村 美佳(滋賀)

損保ジャパン美術財団奨励賞
竹淵 直美(埼玉)

上野の森美術館奨励賞
山口 博司(長崎)

会員賞
阿部 正明(新潟)
高藤 博行(広島)
友政 光雄(滋賀)
深見 まさ子(神奈川)

会友賞
内田 詠子(愛知)
織田 清子(福島)
佐藤 英行(神奈川)
篠原 征子(福岡)
須田 美紀子(福島)
瀬野 道子(京都)
ナカムラ 延子(千葉)
長谷川 昭三(兵庫)
町田 初恵(茨城)
水野 興三(愛知)
山下 かじん(長崎)

特選
朝倉 由美(静岡)

石谷 一節(千葉)
岩田 裕一(山口)
宇都 幸子(滋賀)
大塚 幸子(神奈川)
岡本 礼子(広島)
岡本 尊徳(長崎)
音子 久徳(愛知)
金子 久代(愛知)
鈴木 郁代(岐阜)
高谷 啓子(兵庫)
鳥谷 啓子(熊本)
中野 忠士(熊本)
新川 久子(岐阜)
堀谷 莉恵(熊本)
山田 泰弘(千葉)
山田 美代子(北海道)

新人奨励賞

高見 愛(熊本)
津田 佐千子(石川)
中村 紘子(東京)
西村 夏希(熊本)
西本 誠(長崎)
吉井 愛(大阪)

会員推挙

石関 和夫(群馬)
伊藤 榮一(新潟)
上村 育子(宮崎)
中川 清功(滋賀)
吉田 清光(神奈川)

会友推挙

池原 多恵子(富山)
磯貝 文利(愛知)
今泉 あかね(神奈川)
浦上 光喜(熊本)
太田 広信(富山)
片岡 素子(東京)
工藤 絵里子(埼玉)
栗原 清道(愛媛)
小林 直司(新潟)
小野 武夫(愛知)
佐野 武夫(愛知)

会員になって
—自己紹介—



石関 和夫
(絵画)

初出品以来、「人」を描き続けてきました。近年は「前向きに生きること」を主題とし、困難に遭っても希望を見出していこうとする人の姿を描いています。目標としてきた会員に推挙していただきましたが、これを通点ととらえ、今後も挑戦する姿勢をもち続けたいと思っています。特に、画面構成や画肌づくりを大切にして思いを効果的に表現できるよう努力していきたく考えています。

洪谷 良子(千葉)
すぎもと 和(愛知)
竹淵 直美(埼玉)
田辺 幸子(新潟)
遠山 美子(大阪)
永井 由美(東京)
中村 正勝(岐阜)
西村 眞紀子(石川)
根木 眞悟(京都)
服部 幸雄(群馬)
古谷 和子(神奈川)
森千恵(愛知)
安本 弘恵(愛知)



伊藤 榮一 (絵画)

43回展に初入選以来毎年
好んでシュール風の作品を
出品してきました。

シュールの作品は数少な
く、遠回りしている感もあ
りました。しかし、二科会
趣旨の文面の一部に、一流
一派式にならない、流派の
如何を問わずに共感し、今
日に至りました。

これからの制作は、なお
シュール系を模索し、より
研鑽を重ね、期待に応える
よう、作品を描き続けてい
きます。



上村 育子 (絵画)

学生生活を含め、四十年
間の大阪での暮らしから離
れて今年の四月に、宮崎県
の方に帰郷しました。

記憶の断片を誇張と省略
を意識しながら画面構成を
しています。その奥に潜
む「向こう側」が表現出来
ればと模索を繰り返してお
ります。この度会員に推挙
していただいた事を励みに
今までは異なる環境の中

で自分自身を問う良い機会
にしていきたくと思います。



中川 功 (絵画)

「先づは自分を表現する
こと、そして遅く生きな
さい。」生前、横溝環先生
の病床からの便りの一節で、
私には今も忘れられない制
作上の心情となっています。
国家公務員を定年退官し

「これからの我が人生」と
の思いで本格的な制作活動
に入って早や十三年が過ぎ
ました。

「自分を表現する」……
会員になってなお、追求し
続ける奥深いテーマです。



吉田 清光 (絵画)

今年で四十三回目の出品
で会員に推挙されました。
二科の作家達にあこがれて
二十才の初入選の時は分解

した百号を電車で運び都美
館の搬入口で木枠を組立て
キャンバスを張り直して出
品した事などが思い出され
ます。今はあのおこがれて
いた作家の作品は無く悲し
いかぎりですが、あこがれ

ていた作家達にまけない様
な作品を描きたいと思うば
かりです。

受賞者 喜びの言葉



二科賞
餅原 宣久

受賞の連絡をいただき、
ただ驚くばかりでそのまま
暫く過ごしました。まだこ
の「できごと」を自覚する
に留まっている現状ですが、
少し落ち着きその意味や重
さを感じ始めています。
継続してきた制作に対し、
たいへん大きな評価をいた
だいたことは、この上ない
喜びであり、大きな励みに
なります。



パリ賞
北村 美佳

初出品の頃から夢みてい
たパリ賞。叶わぬ夢と思っ
ていましたので、本当に驚
きました。少し時間が経っ
て今思いますが、一緒に
出品してきた仲間と、そ
して、これまでであったかく

見守って下さった先生方へ
の感謝の気持ちです。描く
ことは孤独ですが、受賞に
あたっていただいた、たく
さんの方からのお言葉は、
これからの私の大きな支え
です。本当にありがとうございます。

制作の ねらいなど

時感 11・XI

餅原 宣久(鹿兒島)

タイトルの「時を感じる」
と書く「時感」という造語
は私の作品の内容と制作姿
勢について語る重要なキー
ワードです。作品を通して
「生きている」という「感覚」、
つまり「時感」を思い起こ
させるような平面の制作を
目指し、油彩の技法におい
て何層も何層も塗り重ねて
表出する平面を作り上げて
いく作業は自分が感じてい
る「時」を織り込んでいく
ことだと考えています。

RAILWAY I

北村 美佳(滋賀)

色々なことが起こった今
年は、何を描けばいいの
かわからなくなり、アトリ
エで仕事が進まず、スケッ
チブックを持って、電車で

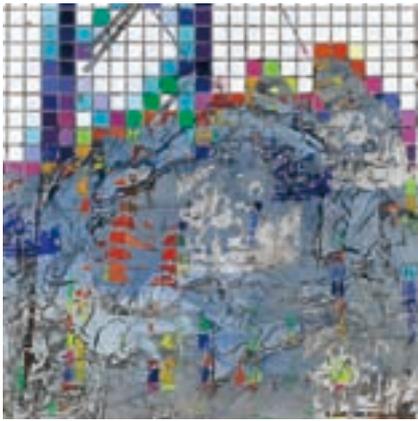
乗りました。京都駅で降り
ました。次々と電車が行き
て、強い風に飛ばされそう
になりながら、しばらく線
路をスケッチしました。と、
いうか、ひたすら線を引き
ながら、頭がからっぽに
なりました。そして描いた
のが今回の作品です。

二科賞 時感 11・XI 100F
餅原 宣久



パリ賞 RAILWAY I 100F
北村 美佳





上野の森美術館 奨励賞
リフレインXIII 80S
山口 博司



特選 '11 生きるV 100F
朝倉 由美



損保ジャパン美術財団 奨励賞
二元論 100F
竹淵 直美



特選 道A 100F
山田 美代子



特選 月の雫IV 100F
岩田 一男



特選 組曲 80S
石丸 節子

二元論

竹淵直美(埼玉)

去年のみならず今年も賞をいただき、大変嬉しく思っております。今回の絵は二元論という論理を私なりに形にして表現してみました。これからはますます精進していきます。ありがとうございました。

'11 生きるV

朝倉由美(静岡)

油絵を描いて四十年。お世話になった多くの方々のお陰で、やっとスタート地点にたどりつけた気持ちです。

初入選以後「生きる」をテーマに描いて八年連続入選する事ができました。三月の東日本大震災は、山形県出身の私にとって衝撃的な出来事で「明るく勇気づけられる作品にしたい」と思いで表現しました。

リフレインXIII

山口博司(長崎)

受賞の知らせを受けた後は実感がなく、次の日の朝が一番嬉しかったです。手を動かしながらでなければひらめきが訪れないと信じ、今年是小品二千六百枚を制作するなど、もがきました。結果、たれる、はねる、割れるなど塗料のもつ表情を受け入れ、自分なりにコントロールできた作品を認めていただき、大変光栄です。

組曲

石丸節子(千葉)

国立新美術館の開幕に初出品を「四回目」となります。昨年は体調を崩し半ばは描くことを諦めかけて居りましたが、本年より座ることに慣れ描き終えてみればこんなに素晴らしい賞を賜りました。数年前より色や形にこだわり、音の響きをとおり自分の世界を描いてきましたが、これからはさらに継続して取り組んで参りたいと思います。

月の雫IV

岩田一男(山口)

私は運勢的に火が強過ぎるのと事で、今水をテーマにした作品を描いています。月の雫とは、露の事で、私の絵には水滴が、数多く登場します。生命は、水から生まれ、育まれる。ひいては、美の化身であるビーナスは、月の雫から誕生するといった思いが、私の絵には込められています。

道A

山田美代子(北海道)

私がこれまで歩んで来た道をふり返ると必ず絵が身近にあり、心の糧になっていたような気がします。それでも絵を続けようか迷う時があります。その時の心情を、道をテーマに表現してみました。これからも多くの方々を支えられていた事に感謝しゆつくりと絵の道を歩いて行きたいと思えます。



特選 象Ⅱ 100F
大堀 幸子



特選
甘月蝕：天と地と、
そして狭間のブルー・Ⅱ 100F
音辻 尊徳



特選 夜明けの町を行く 100F
宇都木 裕子



特選 朽ちていく花Ⅲ 100F
金子 久子



特選 ゆるるバラーレクイエム 100F
岡本 礼子



特選 la vie 100F
高谷 ひろ子

象Ⅱ 大堀 幸子(神奈川)
初出品で特選を頂きよもやと言いついで大変びっくり致しましたが、今回の作品は今迄何処かで見たとある風景を懐かしく感じとって頂ければと思っています。描いていく内に古さの中に新しさを少し取り入れてみました。人の住む街、生きている街として観て頂く方に想いを馳せて頂ければ幸いです。

甘月蝕：天と地と、そして狭間のブルー・Ⅱ 音辻 尊徳(長崎)
この作品は、いつの間にか忘れてしまっている偉大なる自然への畏怖の念と敬意を、私達が作り出した脅威のシンボルと、翻弄される女性の姿を描くことで、我々自身への警鐘を促す意味を込めて、メッセージとして具現化しました。
古より、自然から多くの恩恵を受けてきた民族として復興を願うばかりです。

夜明けの町を行く 宇都木 裕子(滋賀)
キャンパスにいくつかの線を引き、そこから人物や建物・風景を探し出して作った架空の世界を描いています。何かにつけて臆病な私ですが、特選をいただいたことで新しい事に挑戦する勇氣もいただきました。静かだけれど「何か起こりそうな予感」が感じられる、そんな絵を描くため、今後も精一杯努力いたします。

朽ちていく花Ⅲ 金子 久子(愛知)
十月、立ち枯れた向日葵に心を奪われます。ものにはすべて終わりがあることの、悲しき、空しさを想い描きました。実物は、暗く重い色ですが、流れゆく季節の中で消えてゆくイメージにしたいと考えました。
今回の受賞が、これからの制作にはずみをつけてくれると思います。ありがとうございます。

ゆるるバラーレクイエム 岡本 礼子(広島)
「あなたは、リズムに反応している。」「自分を信じて描きなさい。」「私が大事にしている言葉です。形に囚われず、自分の感覚感動を大切にしようになりました。絵が自由になり、リズムを感じるモノや形に手の動くまま任せて描くようになりました。今、「アートで子育て、アートの町づくり」を目指しています。

la vie 高谷 ひろ子(神奈川)
人生、生き方という意味の *la vie* (ラヴィ) は私自身へ問いかけるタイトル。
ふと振りかえると、よろよろしたり、立ちすくんだり、曲がりくねった線の上に立っている自分。絵も同じ、迷いながら描いている。
混迷する二〇一一年に頂いた特選は、喜びよりも大きな課題を与えられたと受けとめています。



特選 neco III 80F
堀谷 莉恵



特選 思い出のケアンズ 100F
鈴木 郁代



特選 還る物 I 100F
鳥谷 啓子



特選 壁 (ミスチーフ) 100F
新川 久子



特選 樹生 (夕闇) -2011-P100 100P
山下 泰弘



特選 ハイビーマン 2 100F
中野 忠士

neco III
堀谷 莉恵(熊本)

身に余る賞をいただいたのは信じられない思いですが、他の受賞者の方々の作品を見るとまだまだ未熟だと痛感いたします。

時に悪、時に善と気まぐれに動く猫をまだ描ききれずにいますが、物と戯れ人の入り込めない猫だけの世界を感じていただければ幸いです。

思い出のケアンズ
鈴木 郁代(岐阜)

二十五年目にて特選を頂き嬉しくて次のステップになれるよう頑張ります。ケアンズを飛び立つ時、空の上より幾何学的風景に感動し頭の中で構図を取りました。私は同じテーマを何年も追究出来なくて悩んでいます。いつも感動した物を描きたいと思っています。

還る物 I
鳥谷 啓子(兵庫)

地面に釘や蠟石で蟻の家を描いていた幼い頃。デザインの勉強をしていた青春時代。そして何かを乗り越えたくて始めた絵画。幸いにも発表の場を与えて頂く。大地から得た物が人との関わり、年月を経てまた大地へ還ってゆく事に思いを寄せつつ「特選」の前に気を引締めて今日も「錆びた面白いカタチ」を暗中模索。

壁 (ミスチーフ)
新川 久子(大阪)

特選の電報に驚き、一番は誰に報告しようかと家の中を歩き廻りました。さて、受賞作「壁」は私の実家の土壁です。昔は親類が集まり、ワラを切り、土と水を混ぜて捏ね塗ったものでした。今では一部欠落したりシミも付いていますが、温もりを感じます。昨年他界した父との思い出を感謝をこめて描きました。

樹生 (夕闇) -2011-P100
山下 泰弘(千葉)

絵の制作は人生そのものの毎日の生活の一部になっています。また、毎日が充実しています。今回の作品は夕方、日が暮れる風景を屋久島で体験しました。微妙に日が落ちて行くトーン、釣瓶落しが大変に幻想的で美しく敬意を感じました。来年も今年以上に良い作品が生み出せる様に努力をして邁進して行きたいです。

ハイビーマン 2
中野 忠士(熊本)

空行く雲にも、野を吹き渡る風にも、動かぬ岩にも時として、父母を、恋人を思い出させる一瞬がある。

廃棄する古ビニールの中にも、見ようによっては様々な物体の顔に見えて何かを語りかけているような気さえする、その場面をとらえた。構成色彩と課題多いと思いますが一歩ずつでも前進出来ればと思っています。



新人奨励賞 時の薫り-II 100F
津田 佐千子



新人奨励賞 爺の大鋸 100F
高見 愛



新人奨励賞 樹Ⅲ 80F
西 夏希



新人奨励賞 小鳥に語る 100F
西本 誠



新人奨励賞 LOVE & PEACE 100F
中村 綾子



新人奨励賞 樹Ⅲ 60S
吉井 愛

時の薫り-II 津田 佐千子(石川)
受賞は喜びと共に迷いや不安に臆する事なく描き進む勇氣を与えて頂きました。作品は凍てつく冬を、母胎に守られ寒さに耐える小さな命達が誕生を迎える季節を背景に、雪国で自分も成長し共生した自然を、雪融けの質感を交えて表現を試みました。新鮮と思える感覚を失わず、作品を成長させる努力を続けたいです。

爺の大鋸 高見 愛(熊本)
人との生活をしてきたのだからと古い物を見ては思い巡らせていると、自分はあらゆるものと繋がっていることを気付かせてくれます。先人たちの智慧に学び、自然を尊び、自分を取り巻く環境や人、物を大切にしていきたい。日々失われていく昔のくらしを少しでも絵に描き残したいと思っています。

樹Ⅲ 西夏希(熊本)
この度は、新人奨励賞という過分な賞をいただきありがとうございます。
私は中学生の時から先生に師事して学び、現在大学でも洋画を専攻しています。
自分の何倍も生きている大木の滲る気配に強く心ひかれて「樹Ⅲ」を製作しました。これからも、もっと表現の幅を広げていきたいと思っています。

小鳥に語る 西本 誠(長崎)
題名の「小鳥に語る」ですが、同名のリストの曲より頂きました。世界のありようを小鳥に語る様を壁画風に表現しようと試みました。今回は題名を頂いただけで、曲と絵に関係性はございませんが、いつかは曲のキラキラした叙情的な雰囲気、絵に表現できればと思います。そして、ただただ感謝するばかりです。

LOVE & PEACE 中村 綾子(東京)
受賞の通知を見た時、初めての大作、出品だったので嬉しく、涙がでた。
毎日の様に流れる悲しいニュース、目を覆いたくなるような映像、悲しみに打ちひしがれて自ら命を絶つ人。私になにかできる事はないか考えた。一枚の絵ではないか考えました。私なりに表現した愛と平和です。

樹Ⅲ 吉井 愛(大阪)
食事は生きる為の前向きな行為であり、身心に変化を齎す危険な行為です。
大腸菌、産地偽装、セシウム、カロリー、脂肪、太るかもしれない…。不安は尽きません。可愛いケーキを食べ過ぎ、可愛い服が似合わなくなる恐れもあります。
それでも私は幸福と不幸を美味しく食べて生きます。

第96回展
総評刻
[彫刻]

第96回二科展に思う

常務理事 菅原 二郎

今年は三月に東北大地震、津波が、そして福島原発の事故が起こり多くの方々が犠牲になられ、今も沢山の方々が避難生活を余儀なくされているという大変な年になった。二科に出品されている方々も被害にあっておられると伺い、皆様が一日も早く復興されることを心より祈っています。

今年の夏もまるで日本が亜熱帯になってしまったような暑さ、そしてスコールを思わせるようなゲリラ豪雨、その上強烈な台風被害。そのような中、多くの労作、力作が二科展に集まり、搬入、審査、陳列そして八月三十一日からの二科展が始まった。

陳列計画にあたり、まず今年の陳列基本方針を展示委員で協議し、出来るだけ各作家が今までと同じ場所にならないよう、つまり定位置を作らないよう計画した。各部屋に一般、会友、会員の受賞作を始め、力作を中心に構成していけないか頭を悩ました。屋外展示

においても、今まで野外展示場A、Bに展示することが多かった作家は野外展示場C、Dに展示することが多かった作家と入れ替え、力作を中心に展示した。昨年の展示では、屋内に木彫作品が多く、屋外には石の作品ばかりという意見もあり、それを踏まえて、屋内にも石の作品を展示するよう努力した。また、木彫作品や鉄の作品の屋外展示については、屋外展示を前提に制作してこれらた作品を除き、木彫はその材質上の、鉄は錆びの問題で野外展示は極力避けた。ここ数年、事前に展示委員会の了承を得れば



彫刻会場風景

規定の専有面積を越えた大作品も出品可能になっており、今年も数人より申し出があった。それらの作品を観てみると、やはり規定外寸法の申し出をされてこれだけの力作で、それぞれの空間で存在感を主張していたように思った。

会友の中でも注目すべき作品が多く、着実に次の会員を狙う位置に接近して来ているように思い、非常に頼もしい感じを私ほうけた。

第96回二科展 受賞者氏名(彫刻部)

文部科学大臣賞(彫刻)
小林 亮 介(長野)

二科賞
該当者なし

ローマ賞
嶋崎 達 哉(千葉)

彫刻の森美術館奨励賞
本多 紀 朗(大阪)

会員賞
嶋崎 達 哉(千葉)
下 山 直 紀(静岡)

会友賞
秋 山 隆(広島)

戸部 晴 朗(埼玉)
渡 辺 一 宏(東京)

特選
吉野 ヨシ子(千葉)

高坂 静 香(山形)
土屋 賢 次(群馬)

新人奨励賞
山田 美 樹(山形)

会員推奨
該当者なし

会友推奨

森田 博 之(埼玉)
林 一 平(石川)
藤田 明 美(神奈川)

受賞者 喜びの言葉



ローマ賞
嶋崎 達哉

初出展から四半世紀、葛藤や迷いの中で、作風やスタイルも大きく変わってきました。今回、会員賞とローマ賞を同時に受賞させていただき、今、自分が目指しているものに、多くの先輩方にも賛同して頂けたという自信につながりました。今後、この受賞に甘えることなく、勇気を持って挑戦していきたいと思っています。

制作の ねらいなど

Donna Sciarpa
(ドンナシアルパ)
嶋崎 達哉(千葉)

木の持つ柔らかな質感を生かして女性の優しさや奥ゆかしさ、凛とした気品を表現したいと思い、シンプルですが具象の女性像に取り組みました。作品に色や線を入れる事は立体としての形の甘さを補う為ではなく、彫りの甘さを露呈する事もあるのだと気付きました

た。今後は女性の内面と共に、その背景や空気感を出せればと思います。

serendipity

下山直紀(静岡)

本作品のテーマとなったものは『柱』と上昇する生命体である。昨今の地球全体の異常な胎動は、全ての生命に、厳しいメッセージをつきつけている。我々人類も周りの生物も、一つの『柱』となり支え合い、未来に向けての想像と創造を紡いでいかなければならない。

本多紀朗(大阪)

この度は、彫刻の森美術館奨励賞という賞を頂き光栄に思っております。塑像作品が減ってきた中、この作品は、胸、腰の塊を足で支え地面に突き刺さり何事からも耐え、力強い男性像を表現し、又、自分自身の感情なども抑え、耐える事から題名を耐としました。

思い出と共に

秋山隆(広島)

この度は会友賞を戴き有難うございました。今回の作品では「台座」と「彩色」について模索すると共に、経験の蓄積の上にいる自分というものを表現しようと取り組みました。それぞれ難し



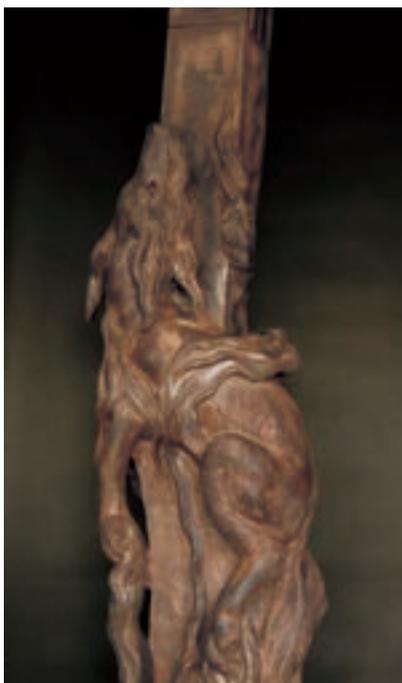
会友賞 風の記憶 戸部 晴朗



ローマ賞・会員賞 Donna Sciarpa (ドンナ シャルパ) 嶋崎 達哉



彫刻の森美術館 奨励賞 耐 本多 紀朗



会員賞 serendipity 下山 直紀



会友賞 思い出と共に 秋山 隆

い課題ではありましたが、次に繋がる一歩として良い結果となった様に思います。

風の記憶

戸部 晴朗(埼玉)

何気無い日常
やさしい風に包まれ
ふと思いで出す

心地好い風に吹かれて
私はそこにいた
記憶に残る懐かしい景色

あの時の風を感じながら、
断片的に形にしてみた。

世界で最も安全な異性の完成

高坂 静香(山形)

記憶の中の他者と現在の私をテーマに制作しました。また生きている私と死んでいる他者との対比を試みた作品でもあります。試みは様々な点で成功と言えるものではないかもしれませんが、少しでも鑑賞者の皆様の記憶に留まる作品であればと願っております。

水面の詩(みなものうた)

吉野 ヨシ子(千葉)

水面から、風、水、葉の音が、囁き合い、雨が降れば一面が、小さな雨粒で、賑やかな笑い声になります。それを見守る勾玉と球体は人々の強い精神力と希望です。自然の中の癒しを、ス



特選 世界で最も安全な異性の完成 高坂 静香



会友賞 Messenger 渡辺 一宏



特選 IN-OUT 土屋 賢次



新人奨励賞 意識 山田 美樹



特選 水面の詩 (みなものうた) 吉野 ヨシ子

テニスという無機質な材料で、未熟ですが、感性を大切に表現してみました。

IN-OUT

土屋 賢次(群馬)

「ルール違反では？」と言う御質問が会場でありました。？ 脆弱なフレーム、硬質な櫛の直方体、有機的な不明物体が一体に成っていると答えた。老人は「これはいい」と一言。物体をどの様に展示すればの表現。区画内には空気。現実の曖昧さ。題IN-OUT

Messenger

渡辺 一宏(東京)

自分の作品については、各々観た人個々人の内で自由に感じて頂ければ、それ以上のものは余り必要とは考えておりません。それより公募展に於ける賞と言うものの意味を改めて考える契機として、今回の機会を捉えたいと思っております。

意識

山田 美樹(山形)

ある事象に対する意識の違いでそのものの見え方は変わってくる。それでもそこには変わらない本質というものが存在していると私は思う。そのものの本質を掴みたい、と願いながら作品を制作しました。

第96回二科展 授賞式

本年度の二科展授賞式は、八月三十一日、国立新美術館講堂に於いて織田理事長はじめ、損保ジャパン美術財団・原口秀夫様、上野の森美術館・釘持邦弘様、彫刻の森美術館・水野泰山様にご列席を頂き、評論家・林紀一郎様にご祝辞を賜り厳粛に賞状授与が執り行われました。

今年の受賞者の中には東日本大震災の被災地からの受賞者もあり、賞状授与に合わせて受賞作品が正面の大スクリーンに映し出されると、列席者からひととき温かい拍手が湧きました。

また本年は二十二歳でダブル受賞の会友推挙者が誕生し、力のある若い作家を育てていこうとする空気を感ずる授賞式でもありました。受賞者名簿も年々充実した形となり、一つの良い形が出来てきたように思います。

二科展開催の初日に授賞式を行うようになって五年目になりますが、華やかなセレモニーの裏では、二科展成功の為にと動いてくれる多くの人達がいます。そういう方々に感謝をしながら、来年も心に残る授賞式が執り行われるよう更なる努力を積み重ねていく所存です。

事務局 埜 珠世



第96回二科展 懇親会

八月三十一日リッツカールトンホテルで恒例の懇親会が開催されました。

生方理事の司会で、織田理事長から「絵は難しいものです。」に始まるご挨拶があり、ご来賓のNHK厚生文化事業団理事長の中村季恵様、評論家の林紀一郎様から祝辞をいただきました。続いて、ご来賓の紹介がされました。

石附常務理事が受賞された若い方達に「いつまでも謙虚な態度で臨んで欲しい」とのお話の後、乾杯の音頭を取られ、歓談に入りました。

受賞者が壇上で紹介され、藤田、五味両会員の進行による色紙抽選会が行われ、和やかで有意義な懇親のひと時の後、小山常務理事の挨拶と一本締めで終宴となりました。



カット 会友 中山 昌美



第96回二科巡回展日程

名古屋展

愛知県美術館
平成二十三年十月四日

～十月十六日

大阪展

大阪市立美術館
平成二十三年十一月一日

～十一月十三日

富山展

富山市民プラザ
平成二十三年十一月十六日

～十一月二十三日

京都展

京都市立美術館
平成二十三年十一月二十六日

～十二月四日

広島展

広島県立美術館
平成二十四年一月十日

～一月十五日

鹿児島展

歴史資料センター黎明館
平成二十四年三月七日

～三月十八日

福岡展

福岡市立美術館
平成二十四年四月二十四日

～四月三十日

春季展日程

期間 平成二十四年
四月十七日～二十三日

会場 東京都美術館
ロビー階第三・四棟

ギャラリートーク 絵画部

初めてギャラリートークをやらせていただいた。

事前に考えたのは、
・作品に表現される作家の世界観

・これはテーマに直結する
・テーマにつながるモチーフの選定とシンボルの意味
・それらに関連づける画面構成

こういったものは制作している作者の内的必然性によるもので、トークする者が読み取るのは大変困難で



ある。困難であるが、今度はトークする側の知的直観力や作品に対する感受性によって、その困難を切り開いていくものであると思う。作者とトーク者側の対話はあくまでも、作者に想いを寄せたものであることが必要であると思われる。
トークによって作品が一層輝きを放つものになると良い。浜田、山岸、江崎、堀尾、二石、横前、今村の各先生の作品が少しでも輝いたものになったことを願っている。

三後 勝弘

会期中、何度かギャラリートークを担当いたしました。参加してくださる方々の多くが出品者であり、



絵をお描きになられている方のように見受けましたので、進行のときは作者の個性、制作の秘密みたいなものを引出したいと思っていました。作者との質疑応答などで楽しいやり取りが出来ればと思っていました。が、お願いしてあった作者は、話す事柄を決めていて、長々と話す人が多く、時間をオーバーすることも多かったです。

自分の作品では、反発しあう油性絵具と水性絵具を交互に使っている話や、美術館では作品に触る事はタブーとされていますが、自由に触ってみてくださいと言いましたら、喜ばれ一気に雰囲気はほぐれました。

生方 純一

ギャラリートーク 彫刻部

九月四日(日)、今年で六回目になるギャラリー

トークが第96回二科展彫刻部会場にて開催されました。菅原二郎理事の挨拶の後、五人の作家によるトークは、作品に対する熱い気持ちと、素直でわかりやすい説明によって、好評に終わりました。

では、当日のギャラリートークのコースに沿って会場の様子を紹介します。はじめに、会友工藤直さんの木彫作品(題名:時の旅人)です。この作品は、色の違った木を使った寄せ木作りの

人体作品です。参加者が作品前に集まると、いきなり作品の解体から始まりました。巧みに作られた部分の解体になると、参加者からの感嘆の声が上がり、作品のもつ強さがどの様な技にささえられているかを知り、感心していました。

次に文部科学大臣賞を受賞した会員小林亮介さんの作品(題名:実11-3漂流)です。野外に出ると、整然と並べられた果実(御影石)の作品は、あたかも、生命

が漂流しているようで、「3・11震災の報道に涙していた」と話す小林さんのトークに参加者は、考え深げに聞いていました。次に同じく野外的作品で特選を受賞した吉野ヨシ子さんの作品(題名:水面の詩)です。風と葉と水面のさ

さやきが聞こえてきそうなステンドレスの作品を前に、溶接の難しさや組み立ての苦労話に、参加者は興味を持ち質問をしていました。

次に室内にもどり、今年会友推荐された藤田明美さんの作品(題名:底より)です。大地の底から這い出てきたような人体作品で、流水で作られています。特に藤田さんの率直な作品説明に、参加者は好感をもつて興味深く聞いていました。

次に特選を受賞した土屋賢次さんの二作品(題名:IN-OUT FORM11-8)です。「言葉で説明できない内側の世界を木に託して刻みたい」と語る土屋さん

最後に会員の大村富彦さんの作品(題名:無形の翼)です。テラコッタ作品(素焼き)の大変さや、割れて偶然できるマチュエールの面白さなど話していただき、参加者は大変興味深く聞いていました。

ギャラリートーク終了時には、参加者から自然に拍手が起こり、有意義な企画であったと確信しました。今回協力していただいた皆様には心より感謝いたします。

廣瀬 友彦



南相馬市における 義援活動

二科会として、四月十六日の理事会に於いて東日本大地震・津波・原子力発電所の事故の被災地に対する義援活動委員会を設置した。

六月に入り、福島県南相馬市教育委員会に被災地児童の心のケア支援の絵画教室開設、及びその作品展示企画について、通知をしたところ、市立上真野小学校校長よりの依頼で、二十七日打合わせを行った。

学校長より被災地と上真野小学校の現在の状況の説明があり、学年主任、各学年担任、教頭先生と話し合い、七月六日(水)三時間、七日(木)二時間、同校体育館にて二年生、三年生、四年生を対象に、水彩紙四六判四枚を、つなぎ合わせた大作を共同制作する事を決めた。

二十八日、(株)画材の森ル・ボアの協力により、クレパス、水彩えのぐ、筆、画用紙等を学校宛に発送する。次いで七月二日(土)、南相馬市教育委員会事務局 参事兼指導主事佐藤昌則氏へ、支援授業内容等、活動の詳

細を文書にて通知する、そして世界堂で、水彩紙四六判二十枚、いろ紙その他を購入、学校の要望のあった備品、作品乾燥用の棚を決定、学校宛発送注文した。

参加スタッフ七名の担当学年を決め、指導内容を、二年生は虹をテーマに夢を膨らませる。三年生は七夕をテーマに希望を表現する。四年生は国指定重要無形民族文化財「相馬野馬追」

一千有余年の歴史を経て、今なおいきづく伝統の祭が大震災にあい、開催が危惧されて例年三日間の祭りがやっと一日だけ挙行された事に鑑み、テーマを夢追いとし、未来に思いを膨らませる。に決定。

七月六日午前九時、上真野小と現在合同で授業を行っている金房(小高区)鳩原(小高区)両校の六十名の児童と体育館で対面。

入口にはいるなり、子ども達の元気な「おはようございます。」の歓声にも似た声に救われ、絵画教室の成功を感じ、元気をもらっ

た瞬間でした。各学年に分かれての約三時間の共同制作は、時間が短く感じ、子ども達は、活発に、いきいきと楽しんで制作していた。

二年生は、絵の具やマジックで描き、色紙をはり、三年生は、黒や赤、黄などの色を、はけやローラーで大画面に広げ、手をまっ黒にしながら夜空を表現し歓声を上げた。各自大きな星を切張り、絵の中に希望を託していた。

四年生は、郷土の祭り野馬追を、自分達の夢に変え夢追いとして、描いた絵を切り抜き、またいろいろ紙を張り合わせコーラージュ。舞いお



七月の被災地・南相馬市

りてくる神旗に色どりを添え、子ども達ならではの勇壮な夢絵巻きを完成させた。翌七日は、二時間作品の仕上げをし、お別れの写真



児童の作品展示風景・国立新美術館

撮影を学年ごとにして、校長先生へ、作品乾燥用の棚贈呈目録をさし上げた。NHKや新聞社の取材も完成まで二日に渡って続いた。

十一時より仲良し保育所へ、年長組十五名と色遊び、子ども達は、初体験の着彩遊びの仕方に、無我夢中になった。

教育委員会へ、上真野小での絵画教室の報告と、九月の国立新美術館への展示についての話をし、帰りがけは放射能線量検査を受けた。

七月三十日(土) 事務所 共同制作作品三点の手直しチェックをし、彩美堂に展示法と作品の額装を依頼した。

八月三十日 第96回二科

展に、被災地児童作品特別展示「がんばる僕たち私たち」として展示。同時に教育長・学校長・二科会のメッセージも掲出した。会期中各報道機関の取り上げはもとより、一般入場者の関心の高さと共に、感銘感動を与え、多大の影響を呼んだ。

名古屋から始まった、巡回展に、二科デザイン部部長統括・岩田明先生制作になる、被災地児童作品のパネルが加えられた。

十月五日 上真野小学校と仲良し保育所へ、作品を返却し、児童達に作品掲載の冊子を一冊ずつ渡した。

大地震から七ヶ月以上経った被災地は、今も放射能に怯えながらの生活が好転する兆しが一向に見えない。除染作業と子どもの甲状腺検査は、はじまったばかりだ。

子ども達のストレスを軽減させる取り組みを、もっと続けて行くべきではないだろうか……。

川内 悟

南相馬市から

南相馬市市長 桜井勝延
教育長 青木紀男

このたび、本市上真野小学校におきまして、絵画教室を開催いただき、また、子どもたちの作品展示など、ご配慮賜り重ねて厚く御礼申し上げます。このことは、子どもたちへの何よりの励ましになるものと確信するものであります。

今後共、教育行政復旧復興のため、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに上真野小学校の担任の先生、児童そして保護者より沢山のお便りを頂きましたので、その中からいくつか紹介します。

伏見裕子(担任)

この度のご厚意、とても感謝しております。子ども達は本当に喜んでおり、描いた絵のことを一学期の一番の思い出にした子が多くいました。

震災後、子ども達の環境は、まだ厳しいですが笑顔がいっぱいです。その大きな要因の一つが、今回の二科会の皆様の支援でした。今でも自由に自分の思いで描けた事、指導の先生から

ほめていただいた事、国立新美術館に飾っていただいた事、など嬉しそうに話している子ども達です。

園児保護者Tさん

先日は子ども達の為に御指導いただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

先生方の気持は暗やみの中に差し込む一筋の光だったのではないのでしょうか。そんな光が沢山注ぎ込まれ、子ども達が笑顔になってくれれば嬉しいと思います。

先の見えない混沌とした状況におかれていた私達は、何を目的に生きて行ったら良いのかさえもわかりません。放射能に怯え乍らも、毎日を精一杯生きていくつもりです。暖かくやわらかく寄り添っていただきたいと思えます。また機会がありましたら是非企画して下さい。

子どもたちからの便り

熊坂 琢生

ぼくは始めは絵ってにがてでしたけどみんなが書いてはじめて絵って楽しいと思えました。それにみんなとひとりでは楽しさがちがいました。最高の「ゆめおい」でした。原発に負けずにがんばっていきます。

齊藤 大祐

この前は絵のかきかたや色のぬりかたを教えてください。

てありがとうございました。二科てんの馬の絵をテレビで見たらすごうつっていいました。ぼくは絵をかくのがすこくすきになりました。

只野 悠

わたしたちの絵が国立新美術館にかざってあり、よく目だつてよかったです。わたしたちのかいた絵の所にいっぱいの人が集まっています。うれしかったです。

菅野 玲奈

上真野小は、シヨベルカーであなを二mほど近くまであけて校庭の土をとつてうめました。だから線量が下がったので外であそべるようになると思います。

わたしは絵をかいて馬に乗せただけ空にとんでいようなかんじでした。おしえていただいてうれしかったです。



渡部 絢斗

井戸川 明詩

私たちの絵をかざっていただきありがとうございました。私は絵がかんせいしたとき、とてもうれしかったです。それにあんなに大きい紙にかいたりはったりしたのは、生まれてはじめてでした。本当にありがとう

ございました。

長谷川 冬美

わたしは九月三日二科てんを見にお父さんとお母さんと妹といき、妹のしどうをしてくれた山中先生を見ました。

二科てんではとってもすごい絵があつてびっくりしました。



長谷川 冬美

絵画教室参加者

- 松室重親 川内 悟
- 中島敏明 山中宣明
- 埴 珠世 横前秀幸
- 須田美紀子

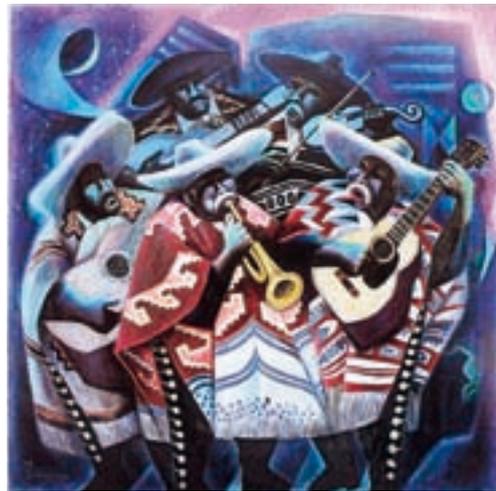
私の故郷は福島県南相馬市であるが、三月十一日の東日本大震災による未曾有の被害は、原発事故を伴い地元で大混乱を引き起こしている。

五感で感じるこのできない放射能は、未だ事態の収束をはかることはできない。そんな中、二科会の仲間が南相馬市を支援して頂いた事は大変嬉しく思います。ありがとうございました。

中島 敏明

報 計

評議員 伊藤 高義氏 逝去す



遺作

マリアッチの灯は消えず S100 伊藤 高義



評議員 伊藤 高義

平成二十三年六月二十八日没 八十五歳

ご遺族 伊藤 創 千四八〇一—二〇一 愛知県愛知郡長久手町大字 熊張字東田二〇四四

メキシコの事なら メキシコにぞつこん惚れぬいた男のことを言う。 まさに伊藤高義君こそ、

伊藤 高義氏略歴

- 一九五三年 二科展初入選
- 一九六六年 会友推挙
- 一九八〇年 会友賞
- 一九八一年 会員推挙
- 一九八九年 努力賞
- 一九九六年 評議員就任

びつたりのメキシコ一辺倒のメキシコ野郎である、少なくとも作品の隅々からその匂いが伝わってくる……。これは今年三月に九十六才で逝去された安藤幹衛先生の言葉である。

北川・安藤両先生の後をついでメキシコ取材旅行を、毎年、毎年と回を重ねて何回行ったか解らない位愛した最後の画家である。

旅行中眼につくものは、すぐ筆をとって、ありあわせの紙に描いていた行動的な画家である。戦後間もない昭和二十八年頃に二科展に入選し今日まで二科会をこよなく愛した律儀な性格で、胃癌の手術退院後も、手抜き休業をとって自己本位の世界に満足する事もなく、本年五月の理事監事評議員会には手弁当で出席し、一度に少量の食事しか摂れない身を押し参加していた真面目な、会思いの彼、いつも傍にいて相談できた男、ときにはライバルと呼ばれた彼を思うと無性に悲しい……。

数知れない多くの絵描きがメキシコへ案内されてメキシコブームを作り、メキシコ野郎と呼ばれ、アトリエをメキシコ専門の美術館にした男、木版画をこよなく愛し死の直前まで仕事をして版画集を出版、皆さんに最後の別れの言葉をいって去った男に心から御冥福をお祈りいたします。 悲しい…… 合掌 杉浦 正美

広報だより

八月三十一日二科展会場

入口で四部門代表による
テーパーカットが行われ第96
回二科展は幕を開けました。

●恒例の「チャリティー色
紙展」は、例年より多くの
色紙の寄贈を頂き、又本年
はデザイン部からのご協力
も頂きお陰様を持ちまして
此れまでを上回る売上げを
果たすことが出来ました。

●金曜日の「ミニコンサ
ト」では、チェルノブイリ
原発事故の体験者、ウクラ
イナ出身の歌姫ナターシャ



「作家のアトリエ訪問」展示

さんの心に染み入る音楽と
スピーチが披露され、年々
増える来場者と共に会場内
は穏やかな空気に包まれる
一時となりました。

●今年二回目の「二科展ツ
アー」は予め申し込みを受
け付け、対象者のニーズに
対応するきめ細かい絵画と
彫刻の会場ガイドを行って
います。本年は京都造形大
学通信講座の受講生、茨城
のカルチャースクール生徒
さん、共立女子大学アカデ
ミー講座の受講生、駒場東
邦高校美術部の生徒さんら
が参加され、又来年も是非
二科展に足を運びたい等の
感想が寄せられ、今後もし
ピーターが増えるよう努力
したいと思えます。

●新企画「作家のアトリエ
訪問」、今年八名の会員の
方のアトリエ取材をお引き
受け頂き、写真パネルと作
家のコメントを作成し休憩
室に展示しました。一般来
場者に向けて作品を身近に
鑑賞する為の企画展開は、
多くの方が興味深く鑑賞さ
れ好評の運びとなりました。
又我々にとりましても作品
が生み出される空間を垣間
見る魅力は作者と作品を密
接に感じる事が出来、今後
も継続して行きたいと思
いますのでご協力の程宜しく

お願い申し上げます。

広報部では今後も二科会
の魅力を広く告知し、来場
者及び新規出品者の獲得に
努力する所存ですので、皆
様のご指導ご協力をどうぞ
宜しくお願い申し上げます。

広報部 加寛裕子

事務局だより

天災を乗り越えて

第96回二科展は大震災の
影響で出品点数や入場者の
大幅減が懸念されていまし
たが、被災地の出品者を含
めてほぼ昨年通りの数の熱
意溢れる作品が搬入されま
した。

また展覧会前半には台風
が襲来し開館も危ぶまれる
日もあり減少したものの、
約九万人の入場者を迎え盛
会裡に終了することができ
ました。二科会の伝統の力
を再認識し、会員・関係者
の皆様のご尽力に感謝の念
を強くしました。

具体的な数字は下記の表
の通りご報告申しあげます。
(表1・2・3参照)
今回の二科ニュースでご報
告の通り四部門が知恵と力
を合わせて様々な義援活動
がいち早く実行されました。

表1

入場者	単位(人)	昨年比
一般当日	4014	
前売り券入場	5244	
高校・大学	407	218 減
メトロコマース	1190	330 減
チケットぴあ	85	14 減
団体割引	65	
企画割引	254	
チラシ割引	629	
有料入場者小計	11888	1921 増
無料入場者	76746	14076 減
入場者合計	88634	12155 減

表2

搬入点数	単位(点)	昨年比
絵画・一般	2946	61 点減
絵画・会友	1005	8 点増
彫刻・一般	69	19 点減
彫刻・会友	44	4 点増
合計	4064	68 点減

表3

展示(遺作含む)	人数	点数
絵画・一般	677	682
絵画・会友	251	289
絵画・会員 (遺作含む)	148	148
彫刻・一般	65	69
彫刻・会友	44	44
彫刻・会員 (遺作含む)	53	64
展示合計	1238	1296

東日本大震災からの復興
に向けては芸術団体として、
あるいは会員一人一人が表
現者として何ができるかを
問われた年でした。

また会場でのギャラリー
トーク等でも作者のお話を
伺うと大小の差はあれ、震
災の影響が根底に現われて
いたり、表現している作品が
多く、震災が与えた影響の
大きさを物語っていました。
義援活動に携わった義援
活動委員会・広報委員や

チャリティー色紙展等に御
協力下さった先生方に事務
局からも厚く御礼申し上げ
ます。

また展示や授賞式のご報
告にもあるように、審査内
規を改善しつつ、若手育成
の観点から審査を実施し、
次世代につながる息吹が強
く感じられました。同時に
長年二科展に発表し続けて
いる出品者にとっても、磁
力のある発表の場であり続
けるような審査であること
も重要な課題と思われま
す。大臣賞審査においては委
嘱審査員として美術評論家
の林紀一郎・南島宏両先生
にお願いし、討議と挙手に
よる厳正・中立な審査をし
ていただきました。

今後公益法人認定や来年
度の役員改選・春季展再開
に向けて微力ながら遂行し
て参りますので、会員の皆
様のご指導、御協力を事務
局一同よりよろしくお願
い申し上げます。

事務局長 山中宣明

今後の予定

春季展
平成二十四年四月十七日
～四月二十三日
於都美術館
第97回二科展
平成二十四年九月五日
～九月十七日
於国立新美術館

編集後記

来春から、実験、挑戦の
場でもある春季二科展が再
開されます。

上野の山が満開の桜でつ
つまれた新しい都美術館で
お会い出来る事を楽しみに
しております。

二科ニュースで使用する
カットを会員の方々に願
いいたします。事務所まで
お送り下さい。
二科ニュースのメンバ
ーが大幅に変わります。今
までの方々には、お疲れ様
でした、新メンバーの方々
、よろしくお願ひします。



カット 会員 島田 紘一 呂

編集委員

- 委員長(影) 島田 紘一 呂
- 委員(絵) 倉橋 寛
- 委員(彫) 戸賀 公久
- 委員(彫) 浅賀 昌子
- 委員(彫) 岩田 博
- 委員(彫) 安田 明長
- 写真記録(絵) 本間 千恵子
- 委員(彫) 阿部 昌義

平成二十三年十月二十七日発行
社団法人二科会
東京都新宿区新宿四一三十五
レイフラット新宿 五〇一号室
電話 〇三三三五四六六四六
千一六〇〇三六